

# 日本経済のあと10年を展望して — 持続的成長の条件

第一生命経済研究所首席エコノミスト  
熊野英生くまの ひでお

- \* 少子化を加速させる理由は何か
- \* 輸出数量の減少で疲弊する地方経済
- \* 労働需給緩和に必要なシニア層の活用
- \* 人手不足経済が加速させる機械対応
- \* 今後はグローバル化の進め方が重要に
- \* さらに増える外国人投資家の意味
- \* 日本は高齢化ビジネスの先進国
- \* 周期的に起こるバブル現象に注意
- \* 資本収益率と経済成長率をどう見るか
- \* 格差是正にも財政基盤の強化が不可欠



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は1年3ヶ月ぶりに熊野さんに来ていただきました。経済の話題はこのところあまり冴えた話がありません。しかも、特にいい話がありませんという状況でございます。消費税がどうなるか、2%のことであるという言われているわけですが、今日はそういった足元の右往左往の話ではなくて、日本経済がこの10年どういうふうになっていくのか、少し視点を変えてお話をいただけるといいと思います。

それでは、熊野さんよろしくお願いいたします。（拍手）

熊野 皆さんこんにちは。経済倶楽部には何度お呼びいただいたか、はっきり覚えてはいないんですが、今回は1年3ヶ月ぶりということ

でまたお世話になります。

事務局のほうから、今日ここでお話をするに当たって、毎週来ている人もいて、いろいろな話を聞いているから普通の話では皆さんなかなか満足しないんだというお話を聞いて、ちょっとドキドキしているんですが、今日の私のお話はいつもどおり、話題としては皆さんがよく聞いた話、あるいは聞いたことがあるデータみたいなものを紹介しながら、やや違った切り口でお話をするといいところ、私なりのアドバンテージがあるのかなど。アドバンテージと言うと声が大きいたがまずアドバンテージだと思えますが、そういう話で今後10年を見てみたいと思います。

まず、今後10年を考えて、明るい未来を想像